

高浜市の未来を創る市民会議(第6回)

目標達成に向けた取り組みの成果を 発表しよう! & 次へのアクション【報告】



日時 平成25年3月1日(金)

午後7:00~8:45

場所 中央公民館 中会議室

はじめに(事務局より)

- ・「まちづくりシンポジウム」にお越しいただいた方はご存知の方もいると思うが、耳の不自由な方のために要約筆記をする団体である MiMi さんにお越しいただいている。
- ・本日は会議の内容を要約して会場右手のスクリーンに映し出していただく。
- ・活動内容を知っていただくことにより、今後要約筆記を利用したい、MiMi さんに力を借りたいというきっかけになるなど、本日が出会いの場になればよい。



1 みなさんにお知らせしたいことがあります!

〈自治推進分科会 鈴木清文さん、八重口治美さん〉

- ・今年も2カ月が過ぎて弥生の季節を迎え、桜の咲く時期が近づいており、高浜まちづくり協議会では、大山千本桜のライトアップを3月28日(木)から4月10日(水)まで行う予定である。桜の開花状況によっては期間を延長する。
- ・地元高浜の大山千本桜を見にぜひ足を運んでいただきたい。



〈産業・観光分科会 岩崎和也さん〉

- ・平成25年度高浜市観光協会個人会員を募集する。
- ・今年度までは、個人会員・団体会員のお力添えにより事業を進めてきたが、来年度からは従来の会員に加えて様々なイベントや行事にスタッフとして活躍していただく「市民観光ボランティア」を新たに募集する。
- ・今までは参加・見学するだけだった行事も、観光協会と力を合わせ、ともに創り上げていくことになる。
- ・最初の活躍の場は、「春の鬼みちまつり」となる。4月7日(日)午前10時~午後3時まで森前公園を中心に開催し、「食」をはじめとする、市内外のさまざまなブースを出展する予定である。また、大山公園では、文化協会による「大山桜ものがたり」も開催される。



<産業・観光分科会 神谷環光さん>

○鬼コン vol.2

- ・3月24日（日）午前11時30分から午後5時まで、かわら美術館及び森前公園にて、中高生のバコハが主体となり「鬼コン vol.2」を開催する。
- ・当日は中高生によるバンドや演劇、吹奏楽などが出演予定である。
- ・かわら美術館シアターにて「タカハマ物語」の上映も行う。
- ・協賛企業の協力により、豪華賞品のあたる抽選会も行うので、ぜひお越しいただきたい。

○カフェ&ベーカリー ふるふる 就労支援継続B型認定

- ・高浜南部まちづくり協議会がチャレンジド支援事業の一環として協力し、チャレンジドが働いている「カフェ&ベーカリー ふるふる」が、本日をもって県から就労支援継続B型に認定され、事業所として新たな一歩を踏み出す。
- ・チャレンジドを元気づけるために足を運び、チャレンジドの笑顔を見て皆さんも元気になっていただきたい。



<生涯学習分科会 藤克幸さん>

- ・市の介護保険グループ主催の「市民後見人・生活支援員専門研修会公開講座」を3月23日（土）、午後2時～4時にいきいき広場にて開催する。
- ・認知症の高齢者・精神障がい者・知的障がい者の日常生活を支援している家族などがいなくなったとき、誰が支えていくのかが課題であり、そのため、市民後見人・生活支援員を養成する研修を行っている。そのような地域の現状を皆さんに知っていただくためのシンポジウムを企画した。1部は講演会、2部はシンポジウムというかたちである。
- ・障がいを持つ方の生活支援は市全体の今後の大きな課題であり、多くの方に参加していただきたい。



2 目標達成に向けた取り組み成果を発表しよう！

分科会名	取り組みテーマ
自治推進	自治基本条例の子ども向け副読本を活用して 小学校に出前授業に出かけよう！
財政	「まちの財政を学び合う場」で市の財政を広めよう！
生涯学習	生涯学習に関するネットワークを広げていこう！
学校教育	市民や地域が関わる学校授業・行事を「見える化」していこう！ & 学校の想いと地域の想いをマッチングしていこう！
産業・観光	高浜野菜を使った特産品をつくろう！
環境・憩い	環境・憩い分科会の提言を実行しよう！
防犯・防災	安心・安全が実感できるようにしよう！
地域福祉	つながり・支え合い活動を地域に広めよう！
健康	地域医療ネットワークを市民に周知しよう！

◆各分科会の発表時間は4分とする。

（財政分科会より、本日を「財政を学ぶ場」とし、財政クイズをお披露目したいので、発表時間を8分にしてほしいと提案あり。）

⇒（満場一致の拍手によって了承された。）

◆くじ引きにより、発表順を決定した。



●自治推進分科会●

○自治基本条例に込められた想いを伝え、まちづくりの輪を広めようということで、2月7日（木）、高浜小学校6年生3クラスを対象に出前授業を行った。

（出前授業の様子を上映）（神谷和久さん編集）

- ・「改めて高浜っていいなあ」「高浜をもっといいまちにしたい」「知らない話が聞けて良かった」「まちのために役立つ人になりたい」など、子どもたちから良い感想をもらった。
- ・出前授業を受けた児童が、まちの掃除に出かけるなど、まちづくりについて早速行動を起こしてくれた。
- ・来年度は、全小学校にても出前授業を行うので、それにむけてまた準備していきたい。



●財政分科会●

○まちの財政について、より多くの人に関心を持っていただくため、ゲーム要素を取り入れた「まちの財政を学び合う場」をつくろうと取り組み、財政クイズをメンバーで作成し、話し合いを進めてきた。

・(分科会対抗財政クイズを開催)

Q1. 高浜市では中学卒業まで、本人が負担する医療費は0円である。これは税金で一部または全部を負担しているからであるが、平成23年度の1人あたりの年間医療費を比べると、お年寄りの方が子どもよりも多く医療費を払っている？



A1. ○

平成23年度の子どもの医療費は年間1人約3万円であり、老人医療費は年間約9万円となっている。(子どもは世界の宝であり、病気をせず、元気に育つようにという思いから作成)



Q2. 小学生が学校生活を送るためには、学校に光熱水費や修繕費などが発生し、多くの税金が使われるが、平成23年度に小学生1人あたりに使われた市のお金は、10万円以上か？

A2. ×

高浜市では、小学生が学校生活を送るために年間約2億7000万円のお金が使われている。市内の小学生は約3000人であるため、計算すると1人あたり約9万円となる。

(普段の学校生活には多くのお金がかかっているということを子どもたちにまねてもらい、しっかりとした学校生活を送ってほしいという思いから作成)

Q3. “今年是这样やってお金を使います”という計画を当初予算というが、平成24年度の高浜市の当初予算は約220億円であるが、220億円を1万円札で積み上げていくと、名古屋のテレビ塔180mより高くなるか。

A3. ○

100万円の束が1cmであるので、1億円が1mとなる。よって、220億円は220mとなり、テレビ塔よりも高い。

(ユニークな発想によって皆さんに財政に興味を持っていただくという思いから作成)

優勝：環境・憩い分科会

・(参加賞として各分科会に財政クイズ集を配布)

・今日出題したクイズは、小学校高学年への出題を考えている。子どもにお金の大事さや市の財政の大事さを学んでもらいたいので、皆さんからもぜひアイデアをいただきたい。

●生涯学習分科会●

○生涯学習分科会は2点について取り組んできた。

(パワーポイントにて説明)

①地域の達人の掘りおこし

地域の達人とは、高浜市に在住・在勤・在学している方で特技や専門的な技術を持っている人のことである。

1. 市民会議にて調査

全体会にて地域の達人の募集チラシを配布した。

2. チェーンネット調査

PLAN1 広報たかはま毎月15日号で達人の紹介記事を載せていく。

PLAN2 ホームページにも達人の情報を載せていく。

・今後達人の情報を増やしていき、達人の輪をつくっていく。

②高浜（まち）の学校の開催（教える人と教えてもらう人とをつなげる場を設ける）

・地域の達人が先生となり、地域の人たちに学びの機会をつくる。まちづくりのパワーアップを狙う。

・「高浜（まち）の学校」試行版を3月17日（日）午前9時30分より、かわら美術館にて「親子のためのデジカメ講座」を開催する。



●学校教育分科会●

○①「学校行事の見える化」、②「学校と地域の想いのマッチング」について、紙芝居と寸劇による発表を行った。

①「学校行事の見える化」について

- ・市内小中学校のホームページを見ると、年間予定を載せている学校もあれば、月間予定を載せている学校もある。独自性は尊重したいが、様式がそろっていないのでわかりにくい。
- ・情報発信については、大人が子どもに伝えたいことと、子どもが大人に教わりたいこと、地域として伝えたいことなどを絡め合って発信することが重要である。
- ・生涯学習の情報の見える化を進めていると聞いている。お互いの情報のやり取りをしていきたい。

②「学校と地域の想いのマッチング」について

- ・学校と地域の想いのミスマッチをなんとか解消していきたい。良い方法はまだ見つからないが、想いを伝える場を設け、信頼関係を築いていきたい。

事例1 「門のペンキがはげてきた」、「子どもたちが掘ったイモをどうしたら上手に焼けるか」などについて、学校の先生がまち協に相談にやってくる。まち協のメンバーと児童と先生で楽しく課題に取り組む。

事例2 掃除の仕方や雑巾を知らない子どもがいる。

- ・学校が助けを求めているとき、地域がサポートし解決していく成功体験の積み重ねが信頼関係の構築に向けて重要である。



●産業・観光分科会●

○朗読劇「たかはま野菜物語」として発表。



ナレーター：「高浜野菜を使った特産品をつくろう！」

それは、平成24年11月6日、産業・観光分科会の中で取り組みテーマとして決まった。

A : 突然ですが、特産品をつくるのって難しいですね。ネーミングも大事。

B : そうですね、インパクトのある特産物をつくるにはストーリーが必要。

C : タカハマ“野菜”物語とか？

ナレーター：下半期に分科会で取り組んできたことを報告します。

D : 産業観光分科会では、中間発表でもお示した特産品候補の1つである青ナスの試食会を行ったり、農業まつりでは漬け物の試食を行い、同時に大人と子ども、それぞれに向けた漬物に関するアンケートを行った。

E : アンケートの結果はどうでしたか。

F : アンケートの結果は、大人の92%の方が漬け物を食べている。子どもも84%が食べているという結果となった。

G : そうですね。食文化の1つなんですね。多くの子どもが食べれるということもうれしいことである。ただ、少し残念なのが、個人で加工・販売することは、食品衛生法上難しいことがわかりまして・・・

E : そんなにさみしがらずに。高浜らしさが出せる特産品づくりに向けてがんばりましょう！

H : 若い人たちも高浜の自慢をつくろうとがんばっている。負けずにがんばりましょう！

ナレーター：今後この取り組みをこんな風につなげていくことができたらよい。

A : 特産品を1シーズンだけで終わらせず、1年通して収穫できるように、何種類かつくるか検討する必要がある。

B : そのためには土地を有効活用して野菜を栽培できるとよい。高齢者や子どもの力も借りたい。野菜のネーミングや高浜野菜を使った料理レシピを考えていただくなど。

C : いいですね。食卓は家族団らんの場。ご飯を食べながら、家族の中で会話が生まれていく。想像してごらん、まさに大家族たかはま・・・

ナレーター：多くの方々の協力で特産品はつくられる。少々難しいかもしれませんが、何事もチャレンジ精神でがんばっていく。今メンバーが持っているシナリオ、特産品をつくりにはストーリー性が必要である。最後に本日欠席した職員メンバーからの伝言をお聞きいただきたい。

伝言 : 安定的な農業経営を目指すために、生産者・営農者・市民が協力し合って、地産地消の推進及び活性化を図っていききたい。来年からは市民メンバーとして参加します！

●環境・憩い分科会●

○3つの内容についてパワーポイント、パネル等を用いて発表。

①不法投棄を知ろう！

- ・高浜市はきれいなまちであるが、心ある市民と行政のしっかりとした活動により維持されているのが現実である。
- ・写真でおわかりいただけたと思うが、海岸やごみステーションのごみは、不法投棄によるものである。正しく捨てられていないごみは業者も当然回収しない。
- ・不法投棄は常習犯によるものがほとんどである。不法投棄は犯罪であり、警察が介入して逮捕まで至った例もある。不法投棄を防ぐためには、我々大人ができることは、子どもたちに環境についての教育をしっかり行い、新たな常習犯をつくらないようにしなければならない。

②エコステーションについて

- ・食器・衣類などの日用雑貨の不用品を持ち寄って展示をし、必要な人がもらい受けるという活動である。
(不用品がもとの持ち主から新たな持ち主へと渡っていく乗換駅としての役割を果たす。)
- ・3R活動の1つである「リユース」を狙いとしている。不用品も必要としている人の手に渡ればごみではなくなる。
- ・3月17日(日)エコハウスにて開催する。大人から子どもまで多くの方に参加していただきたい。

③子どもたちによるごみ捨て禁止看板の設置

- ・看板を設置しすぎると、まちの景観や雰囲気息苦しくなってしまう。そこで、子どもたちに看板の絵を描くことによって、看板の息苦しさが軽減される。
- ・子どもたち自身が、環境美化を学ぶ機会にもなる。将来のまちづくりを担う子どもたちへの意識づけはとても大切である。

◎今年度の会議の要点は、取り組みをその年だけで終わらせないということである。

10年、20年の長期的な視野に立って取り組んでいきたい。



●防犯・防災分科会●

○防犯について

- ・個人の宝は「健康」であるが、社会生活の宝は「安心・安全」、「防犯」である。
- ・安心・安全の原点はあいさつであり、みんなが友達となると自己防衛や自助が行えるということで、市内であいさつ運動を行った。
- ・キャッチフレーズを「あいさつは防犯の第一歩」とし、高浜市をあいさつがしっかりできるまちにしていきたい。

○防災について

- ・防災や減災をするためには、健康であることが大切である。
- ・「標高の見える化」の第2ステップとして、企業・金融機関・コンビニ・スーパーなど約800か所に、標高サインの設置を展開している。町内会やまち協にも働きかけを行い、避難ルートの検証の措置をしていただく。
- ・200年続くおまんとまつりと同じように、伊勢湾台風や2度の三河地震、阪神淡路大震災、東日本大震災などの災害も1つの文化として、子や孫の世代にしっかり伝えていかなければならない。



●地域福祉分科会●

○地域福祉分科会は、次の2点について取り組んできた。

①ポッチャを広めよう。

- ボールを使った簡単なスポーツであり、コミュニケーションツールとして非常に有効である。
- 昨年11月のわくわくフェスティバルにてポッチャ大会に参加したが、お年寄りの方に負けてしまい、優勝できなかった。
- お年寄りの方や障がいのある方まで楽しめるスポーツであるので、皆さんにもぜひ参加していただきたい。
- このような体験談などを受け、高浜市社会福祉協議会は、ポッチャの出前講座を開催しており、本日チラシも配らせていただいたので、興味のある方はぜひ連絡していただきたい。

②Newボランティア人を増やしていこう！

- 本日、Newボランティア人の宣言書を配らせていただいた。参考例や自分の目標などを記入し、Newボランティア人を宣言していただきたい。
- (近い人同士向かい合い、あいさつを交わす実践)
今行った実践のようなことでも、Newボランティア人としての立派な行動である。とても簡単で誰でもでき、広めやすいと考えている。
- Newボランティア人が1人でも増えることにより、つながり合い、支え合う地域づくりが行われて欲しい。皆さんには率先してNewボランティア人になっていただきたい。



●健康分科会●

○1人ひとりの元気と健康づくりを応援する。地域医療ネットワークを市民に周知しように絞り、活動してきた。

- 地域医療ネットワークとは…（保存版「上手なお医者さんのかかり方」より）平成24年10月より、衣浦定住自立圏域（刈谷市・知立市・東浦町・高浜市）において地域医療ネットワークがスタート。
- 3市1町の診療所と刈谷豊田総合病院を結ぶ。高浜市は16、圏域全体では約170の診療所の登録が見込まれ、医療サービスの向上につながる。刈谷豊田総合病院の診察予約が各医療機関から直接予約できる。予約票により受診ができる。
- 主なメリットは
 - ①診察・検査のオンライン予約が可能となった。
 - ②予約時間の短縮
 - ③紙ベースから電子媒体への移行により、多くの情報を保持・保管できる。
 - ④検査データの確認がリアルタイム
 - ⑤重複聴取をなくし、診察の効率化
- 講演会の開催、広報たかはま掲載、周知チラシの配布などにより、地域医療ネットワークの周知を行った。
- 1月19日の講演会では在宅医療やかかりつけ医師に関する内容の講演であり、多くの方に参加していただいた。
- 今後も健康をキーワードに同様の活動を続けていく。



2. みんなで「市民会議」の1年間を振り返ろう！

(1) 振り返りアンケートの結果をご紹介します

(事務局より、資料2をもとに説明)

- 前回の市民会議全体会にて皆さんにお願いをしたアンケートを集計し、90名分の回答をいただくことができた。
- 全体会、分科会共に、「雰囲気よかった」とお答えいただいた方の数が昨年より増えている。
- 約半数の方に、来年も参加したいと言っている。また、「友人を誘って参加したい」と答えている方が昨年より多くいて、市民会議がさらに大家族になり、輪を広げていければと考えている。

(2) 分科会の1年間を振り返ろう

(各分科会にて振り返り)



(3) 感想を、一言、お伺いします

【発言者は、参加者よりランダムに選出】

- いろいろなテーマを楽しく話し合うことができ、1年間とても楽しかった。

(学校教育分科会メンバー)



- 市外在住であるが、1年間市民会議に参加したことにより、高浜市に住みたいと思うようになった。職員リーダーからもお誘いいただいたので、来年もぜひ参加したい。

(生涯学習分科会メンバー)

- 今年から市民会議に参加したが、だんだんと打ち解けていくことができ、充実していた。

(学校教育分科会メンバー)

- メンバーのやる気と活気に圧倒された。今後は社会福祉協議会の職員として、防犯・防災に対して何ができるかを考えていきたい。

(防犯・防災分科会メンバー)

- 今年から市民会議に参加し、最初は何を話してよいかわからなかったが、とても楽しく1年間を過ごすことができた。

(学校教育分科会メンバー)

3. 第3期メンバーを募集します！

(事務局より、募集チラシをもとに説明)

- ・現在のメンバー数は92人であるが、目標を100人としている。
- ・締め切りは3月29日(金)である。
- ・今年参加した皆さんには、ぜひ継続をしていただきたい。また、市民会議に興味を持っている人がいたら、ぜひ誘っていただきたい。

4. 市長あいさつ

- ・皆さん1年間本当にありがとうございました。
- ・今年度の市民会議は、市民の皆さんが92名、職員が58名、合計150名と非常に多くの方が参加され、開催回数も全体会が6回、分科会が87回にも渡ったと伺っている。高浜市をより良くしていくためのたくさんのアイデア、実行を行っていただいた。
- ・今年度、市民ムービー「タカハマ物語」が完成したが、高浜市には様々な自慢がまだまだたくさんある。今後は、それらを市民の皆さんとともにさらに掘り起こし、様々な形で発信していく「まるごとタカハマ物語」を始動させようと考えている。
- ・来年度は前期基本計画の最終年度となる。引き続きお力添えをいただきたい。



5. 最後に・・・

- 市長より市民メンバー全員に感謝状をお渡しした。
- 市長より今年度全ての全体会・分科会に参加した方に皆勤賞の賞状をお渡しした。
- 女性メンバーにより、「だ・い・か・ぞ・く・た・か・は・ま」で、あいうえお作文披露
- メンバー全員が「大家族たかはま」をイメージし、手をつないで締めくくり

